

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00568

研究課題名(和文) バントゥ諸語に見られる類型間連動関係の研究

研究課題名(英文) A micro-typological study of inter-parametric covariation in Bantu languages

研究代表者

品川 大輔 (Shinagawa, Daisuke)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：80513712

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、サハラ砂漠以南アフリカの広い地域に分布する大言語群バントゥ諸語を対象として、その構造的な多様性を典型的に明らかにするとともに、国際共同研究によって構築したデータベースや現地調査によって得られた一次データを基に、類型間の相関関係や連動関係に関する分析を行った。とくに、バントゥ諸語の統語構造に決定的な影響を与える情報上の焦点の表示と、それに関連する文法現象との間の相関関係について、バントゥ諸語全体をスコープに含む類型論的な全体像を提示した。こういった研究成果は国際共著論文、また国際学会における研究発表の形で国際的な研究者コミュニティに向けて発信されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究による研究成果は、アフリカ大陸で話される言語のおよそ1/4を占めるバントゥ諸語にみられる構造的な多様性と、その多様性が生み出されるプロセスを説明する原理の理解に寄与することを目的としている。現在のバントゥ諸語研究の国際的な関心事であるこの問題に対して、本研究は国際共同研究をとおした、またフィールド調査による一次資料にもとづく実証的な貢献としての学術的意義を有する。またこのような形での知見の更新は、一般社会における言語多様性に関する現代的問題への関心に応答するという意味での社会的意義を有する。

研究成果の概要(英文)：This study aims to reveal morphosyntactic diversity of the Bantu languages, the largest phylogenetic linguistic branch in the Niger-Congo phylum with about 500 languages spread vastly in Sub-Saharan Africa, from an intra-genetic typological perspective. Based on a large-scale database on morphosyntactic variation of Bantu languages created through collaboration with international research communities, as well as on the original descriptive data collected through fieldwork, this project has investigated to expand our knowledge on correlation and co-variation between fine-grained parameters that typologise a wide range of structural variation observed in Bantu languages, especially those relevant to focus marking strategies and various related features. The findings from this project have been published in several international publications and presentations.

研究分野：言語学

キーワード：バントゥ諸語 系統内類型論 形態統語論 類型間連動関係

1. 研究開始当初の背景

人間言語の構造的多様性と、それを基盤として一般化される普遍的原理を探究する言語類型論は、系統関係を超えた世界の言語全体を射程に入れたマクロな類型論 (**macro-typology, large-sample typology**) 研究によって、20 世紀後半以降現在にいたるまで大きな進展を遂げてきた。一方、マクロな類型論が有する方法論的限界——すなわちサンプルの代表性 (**representativeness**) の問題と、分析対象とするパラメターの精密さ (**granularity**) の問題——を補完すべく、より詳細な類型論的バリエーションの記述と一般化を目指すミクロな類型論としての系統内類型論 (**intra-genetic typology**) および領域類型論 (**areal typology**) は、比較的近年に発達してきた研究手法といてよい (**Daniel 2011: 62–63**)。

このようなミクロな類型論のバントゥ諸語への最初の適用は **Marten et al. (2007)** に遡る。同論文は動詞構造内での目的語標示や関係節構造など、ごく限られた **19** のパラメターを用いたミクロ類型論のバントゥ諸語への適用の最初の試みであったが、その後、同論文の筆頭著者である **Lutz Marten** 教授 (ロンドン大学 **SOAS**) をリーダーとする国際研究プロジェクト '**Morphosyntactic variation in Bantu: Typology, contact and change**' (**2015–2018**) が立ち上げられ、その成果として **142** のパラメターセット (Guérois et al. 2017) と、それに基づく **100** 以上のサンプル言語から抽出したパラメター値のデータベース 'Bantu

Morphosyntactic Variation

Database' (**BMVD; Marten et al.**

2018) が構築された (図 1) だが、同プロジェクトはパラメター間の連動関係の分析は研究の直接的な射程に含んでおらず、研究開始当初においては、本研究課題が主要なテーマとするパラメター間の連動関係に関する包括的な分析は手付かずの状態にあった。

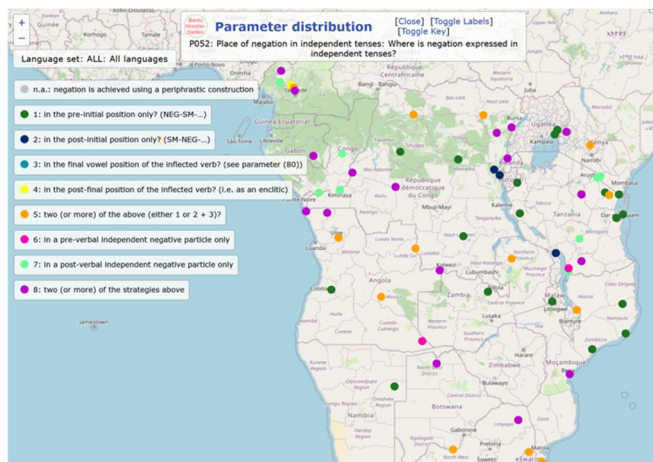


図 1: BMVD (Marten et al. 2018) のデータ表示例

2. 研究の目的

このような状況を踏まえ、本研究課題は **BMVD** を研究資源として活用しつつ、さらに現地調査による一次資料を反映する形で、バントゥ諸語の形態統語論レベルでの類型的多様性を明らかにし、そのうえでそういった構造的な多様性を説明する質的な原理に関する新たな知見を提示することを目的とした。

表 1: 否定不変化詞と焦点表示の連動

		NEG particle	
		no	yes
CJ/DJ	if P074=yes (25)	0.938	0.063
CJ/DJ	if P074=no (34)	0.533	0.167
MFM	if P140=yes (15)	0.533	0.267
MFM	if P140=no (20)	0.800	0.050

3. 研究の方法

具体的な研究方法は次のとおりである。まず上述の **BMVD** に対して、**142** の項目からなる形態統語論的素性に関するパラメター間の相関関係を計算することで、素性間の含意的な普遍傾向を析出する。例えば、表 1 に示すように、情報構造上の焦点 (**focus**) を表示す

るストラテジーとして、離接形 / 共接形 (**Disjunct: DJ/ Conjoint: CJ**) と呼ばれる屈折パラダイムの存在 (**P074: CJ/DJ**) は否定不変化詞 (**NEG particle**) の不在と有意な連関が認められるのに対し、焦点表示のための形態論的マーカー (**Morphological Focus Marker: MFM**) の存在 (**P140: MFM**) は否定不変化詞の存在を予測するといった、パラメーター間の連動関係によって示唆される含意的な法則性の一般傾向を把握する。こうしてさまざまな類型的なマイクロバリエーションのなかでも何らかの法則性が量的に予測される現象に関して、関与する他のパラメーターとの関係や、関連する具体的な言語事実を検証することで、連動関係を説明する類型的原理の解明に迫る。

4. 研究成果

本研究課題が主たる対象としたのは、上に示した焦点表示にまつわるパラメーターと、関連する他のパラメーターとの間の連動関係である。それに関する代表的な成果は、日本語学会の学会誌『言語研究』に共同研究者である **Lutz Marten** 教授との共著で発表した論文 “**Micro-typological Covariation of Negation and Focus Marking Morphology in Bantu languages**” が挙げられる (**Shinagawa & Marten 2021a**)。一方で、**BMVD** を資源としたパラメーター連動による通バントゥ類型論という方法論そのものに関する研究成果として、**10th World Congress of African Linguistics** において、同じく **Marten** 教授との共同で “**A micro-parametric survey on typological covariation related to focus marking strategies: based on the Bantu Morphosyntactic Variation database**” と題した研究発表を行った (**Shinagawa & Marten 2021b**)。これは、「バントゥ諸語の普遍性とバリエーション (**Bantu Universal and Variation**)」と題されたテーマ・セッションの招待発表として行われたものであり、その内容を論文化した原稿は、*Linguistique et Langues Africaines* 誌の特集号に掲載が決まっている (**Shinagawa & Marten, To appear**)。

引用文献

- Daniel, M. 2011. Linguistic typology and the study of language, In: Song, J. J. (ed.) *The Oxford Handbook of Linguistic Typology*, Oxford: OUP**
- Guérois, R., H. Gibson, L. Marten and F. Everduim. 2017. Parameters of Bantu morphosyntactic variation, Zenodo. <https://doi.org/10.5281/zenodo.3958997>**
- Marten, L., N. C. Kula and T. Nhlanhla 2007. Parameters of morphosyntactic variation in Bantu, *Transactions of the Philological Society* 105: 253–338**
- Marten, L., P. Edelsten, H. Gibson and R. Guérois. 2018. Bantu Morphological Variation Database. Online database hosted at SOAS. Available online (with limited access) at <https://bantu.soas.ac.uk/>**
- Shinagawa, D. and L. Marten. 2021a.** Shinagawa, D. and L. Marten. 2021a. Micro-typological covariation of negation and focus marking in Bantu languages. *Gengo Kenkyu* 160: 215–248
- Shinagawa, D. and L. Marten. 2021b.** A micro-parametric survey on typological covariation related to focus marking strategies: Based on the Bantu Morphosyntactic Variation database. Paper read at the 10th World Congress of African Linguistics, also To appear in *Linguistique et Langues Africaines* 9(1).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Shinagawa, Daisuke; Marten Lutz	4. 巻 160
2. 論文標題 Micro-typological Covariation of Negation and Focus Marking Morphology in Bantu languages	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語研究	6. 最初と最後の頁 215-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11435/gengo.160.0_215	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Shinagawa, Daisuke	4. 巻 0
2. 論文標題 Aspects of linguistic dynamism in Sheng as Kenyan Colloquial Swahili: Focusing on de-standardisation and re-vernacularisation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Dynamism in African Languages and Literature: Towards conceptualisation of African potentials	6. 最初と最後の頁 89-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Masilela, Piet, Daisuke Shinagawa, Bafana Mathibela	4. 巻 0
2. 論文標題 South Ndebele (S407)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu vol. 2: A microparametric survey of morphosyntactic microvariation in Southern Bantu languages	6. 最初と最後の頁 257-331
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/99967	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 品川大輔	4. 巻 0
2. 論文標題 ロンボ語（E623）の声調パターン概観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アフリカ諸語の声調・アクセント	6. 最初と最後の頁 177-214
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/99920	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Shinagawa	4. 巻 26
2. 論文標題 The syntactic distribution of relativizers and the development of -enye relative constructions in Sheng	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Swahili Forum	6. 最初と最後の頁 122-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nico Nassenstein and Daisuke Shinagawa	4. 巻 26
2. 論文標題 On variation in Swahili: Current approaches, trends and directions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Swahili Forum	6. 最初と最後の頁 1-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 品川大輔
2. 発表標題 キリマンジャロ・バントゥ語群の内的バリエーション 類型論的に希少な特徴を中心に
3. 学会等名 東京外国語大学国際日本研究センター対照日本語部門, 『外国語と日本語との対照言語学的研究』第33回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinagawa, Daisuke, and Lutz Marten
2. 発表標題 A micro-parametric survey on typological covariation related to focus marking strategies: based on the Bantu Morphosyntactic Variation database
3. 学会等名 10th World Congress of African Linguistics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinagawa, Daisuke
2. 発表標題 we- in Uru (E622D): the birth of a focus sensitive aspectual marker in Chaga
3. 学会等名 8th International Conference on Bantu Languages (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinagawa, Daisuke
2. 発表標題 Morphosyntactic local variation in Chaga: Group-internal variation and atypical features in Eastern Bantu
3. 学会等名 Kick-off meeting, "The past and present of Bantu languages: Integrating micro-typology, historical-comparative linguistics and lexicography" (A JSPS-FWO bilateral joint research program) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 品川大輔
2. 発表標題 バントゥ諸語の構造的多様性は「どの程度に規則的か」 ミクロ類型論からの接近
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 品川大輔
2. 発表標題 バントゥ諸語における情報構造表示の類型とそれらに連動するいくつかのパラメーターについての検討
3. 学会等名 東京アフリカ言語学研究会2021年度第2回研究会,
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinagawa, Daisuke, and Lutz Marten
2. 発表標題 A microparametric approach to typological correlations on focus marking strategies in Bantu morphosyntax
3. 学会等名 ICU linguistics colloquium: African linguistics (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Abe, Yuko; Lee, Seunghun, Shinagawa, Daisuke
2. 発表標題 A Morphosyntactic Survey of Microvariation of Southern Bantu languages: A pilot case of a collaborative linguistic research in African contexts
3. 学会等名 韓国アフリカ学会2020年後期学術会議 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 品川大輔
2. 発表標題 バントゥ諸語における否定とフォーカスのインタラクション: マイクロバリエーション研究からのアプローチ
3. 学会等名 東京外国語大学語学研究所定例研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shinagawa, Daisuke, Junko Komori
2. 発表標題 Stop series in Niger-Congo
3. 学会等名 ILCAA Joint Research Project "Studies in Asian and African Geolinguistics" The first meeting (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shinagawa, Daisuke, Junko Komori
2. 発表標題 Grammatical relations in Niger-Congo
3. 学会等名 ILCAA Joint Research Project "Studies in Asian and African Geolinguistics" The second meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Daisuke Shinagawa
2. 発表標題 *-ag and related TAM forms in Chaga: Habitual, Future, and Focus marking?
3. 学会等名 International workshop: "Sociolinguistic perspectives on variation in Swahili: New approaches to the study of language and its social context in East Africa" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Daisuke Shinagawa
2. 発表標題 Where Chaga differs from typical Eastern Bantu: possible influence from contact with non-Bantu?
3. 学会等名 International workshop "Bantu in contact with non-Bantu" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 品川大輔
2. 発表標題 接頭辞型膠着語としてのキリマンジャロ・バントゥ諸語における スロットの弱範疇性 「変則的なwe-」を中心に
3. 学会等名 言語学交流セミナー2019 「言語実地調査と言語記述」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部優子, 品川大輔
2. 発表標題 バントゥ諸語のマイクロバリエーション
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Shinagawa, Daisuke; Lee, Seunghun J.; Abe, Yuko	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 104
3. 書名 Working Papers in African Linguistics (WoPAL) vol. 1: Selected outcomes of the ReNeLDA project	

1. 著者名 Shinagawa, Daisuke; Lee, Seunghun J.; Abe, Yuko; Cherubin Mugisha	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 108
3. 書名 Selected topics of Kirundi Grammar: A micro-typological perspective	

1. 著者名 Lee, Seunghun J., Yuko Abe, Daisuke Shinagawa	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ILCAA	5. 総ページ数 428
3. 書名 Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu vol. 2: A microparametric survey of morphosyntactic microvariation in Southern Bantu languages	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------